

トランプ政権とアメリカ外交政策

米国投資者保護公社副理事長
米国先端政策研究所上級研究員

GLEN S. FUKUSHIMA
グレン・S・フクシマ

- *大差で勝利ではない
- *バイデンの未練が民主党敗北を生む
- *長期的、戦略的思考がない
- *裁判所は大忙し
- *不安定の中の安定要因とは
- *外交より内政重視の政権
- *早期の北朝鮮との首脳会談狙う
- *買収ではなく投資は危険？
- *何も言えない閣僚たち
- *下院は中間選挙で奪還か



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日はグレン・S・フクシマさんをお招きいたしました。

私は個人的には記者、編集者の時代にずっとお世話になり、フクシマさんのコラムも担当していた編集者でしたので、すごく長いお付き合いです。アメリカに住んでいらつしやいまして、お伺いしましたら、昨年は日本とアメリカの間に7回往復されたとの事です。日本ではアメリカのことを理解してもらうためにご発言され、アメリカでは日本のことを理解してもらうためにご発言され、両国を股にかけて言論の活動を積極的にされている方があります。

ご存じのように、昔は通商代表部の高官で、日本を担当され、それからエアバス・ジャパン

のCEOをされていますから、欧州との関係もご経歴の中であるという方であります。

実際、アメリカの政治家、財界、それからもちろん役人の世界にもたくさんお友達がいらっしゃいます。日頃、経済倶楽部では日本人の学者の方にアメリカを語っていただきますけれども、フクシマさんの場合は実際に向こうにいらつしやって、広い人脈の中で議論をされた結果というものをお話しいただけると思います。

最近、日本ではトランプ政権といいますが、トランプ・イーロン・マスク政権といいますが、そういう状態になってからアメリカ自身が壊れてしまっているのか、米欧関係が壊れてしまっているのか、世界経済自身が壊れてしまっているのかなど、不満や不安が高まっている